



みらいっうしん

7月号

2021年7月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦芳子

自然体験遊びの大切さ

梅雨の蒸し暑い日々の中でも、元気いっぱい園生活を楽しんでいる子ども達です。「みんなおはよう」と保育室に入ってきては、「今日は何して遊ぼうかな？」と目をキラキラ輝かせています。泣いて登園するお友達もほとんどいなくなり、泣いていても、担任やクラスメイトの顔を見ると、ほっとするようで、涙は何処に…。みらいこども園が、安心できる場所になりつつあることにとっても嬉しさを感じます。また、保育者に「みてみて！」と自分の存在をアピールする子どもも増え、関わりや人の反応を楽しんでいます。規範意識も人との関わりから芽生え、ルールを理解できるようになりますので、大いに友達と触れ合って欲しいと思います。

さて、最近の子ども達の遊びを見ていると、自然に触れる遊びが活発になっています。砂場遊び、水遊び、泥んこ遊び、泥団子作り、虫取り、花探し、カエル探し、青虫やカブトムシ、メダカなどの飼育、野菜づくりなど、興味を持つものは人さまざまですが、身近な道具を使って満足するまで遊びを楽しんでいます。その中でも、先日、卵から育てたアゲハ蝶が、ついにきれいな羽を広げ蝶に変身しました。園庭のミカンの新鮮な葉を虫かごに入れて、大切に育てていた子ども達。その場に居合わせた子ども達は、大興奮で、「すごい！きれい！カッコいい！」とどの子も感動している様子でした。そして、蝶をかごから出してあげると、「近くで見たい！触りたい！」という気持ちが強くなり、飛んでいるアゲハ蝶を追いかけることに夢中で、子どものボルテージは最高値になっていました。大勢で追いかけたため、少し羽に傷がついてしまいましたが、無事空に羽ばたいていきました。この自然体験から生まれる感動は、とても大切で、命の気配に触れることで、5官(目、耳、鼻、舌、皮膚)が生き生きと活動し始め、5感(見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れる)も、研ぎ澄まれていきます。今回の体験で、「物に対する興味関心」「気づく」「考える」「表現する」「分かち合う」などたくさんの学びがありました。何よりも命の尊さを知る機会になり良かったです。また、この時期の雨や雲、虹などの気象に関しても興味関心を持ち、季節の花やカエル、カタツムリなどにも触れ、さらなる探究心をもって、次へのステップに意欲的にチャレンジして欲しいと思います。疑似体験が多い現代だからこそ、自然体験遊びは、人生の基礎づくりの乳幼児期において重要に思います。

7月は、七夕コンサートや夏祭りといったお楽しみがあります。子ども達の感動体験になるようこれからも環境を整えていきたいと思っています。



クロアゲハチョウが羽を乾かしています。

